

# 平成 28 年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

今治市教育委員会

## 1 取組の目的

今治市菊間地区は石油精製工場に隣接した地区が天災や大事故に備えて避難訓練等を行っているものの、全域での避難訓練等は実施されていない。大きな災害に遭ったことがない地域性のため、児童・生徒も自然災害を自分のこととして感じていない。

菊間小学校と菊間中学校は距離的にも近くふだんからそれぞれの学校の参観日のときに行き来するなど、教員間の交流がある。また、地域にはお祭りを始めとする伝統行事が多く、小中学生が同じ時間を過ごす機会が頻繁にある。

これらのことを踏まえて、小中学校で連携して防災教育を進めるため、研究主題を「自他の命を大切にし、ともに生きる力を育てる防災教育」とし、自然災害等に対して正しい知識を身に付け、自らの命を守るために主体的に行動し、非常時に地域に貢献できる実践力を備えた児童・生徒を育成する。

## 2 取組の内容

6月5日（日） 【引き渡し訓練】 菊間小



災害時に、正確に児童を保護者に引き渡すために4月に引き渡しカードを作成し、6月の家族参観日後に引き渡し訓練を実施した。全家庭の協力が不可欠な訓練であるため、保護者の負担とならないような日時や方法の設定が重要である。

6月23日（木） 【救命救急法講習会】 菊間中



2年生を対象に、救命救急法講習会を行った。本来であれば、菊間小学校の6年生と合同で実施する予定であったが、都合により、当日は中学生のみでの実施となった。今治市西消防署菊間分署の指導を受けながら、応急手当からAEDの使い方までの一連の流れを確認し、生徒一人一人が救命救急の方法を体験した。

## 6月24日（金） 【防災教育講演会】菊間中



菊間地区連合自治会防災部員である松田俊一様をお招きして、全校生徒を対象にして防災教育講演会を開催した。「釜石の奇跡」を例に出して「自然は人間の想定を超える災害をもたらすことがあるので地域ぐるみで防災に対する意識を高め、共通理解をしておく必要がある。釜石では、強固な防波堤を過信することなく、避難訓練などを地域ぐるみで続けてきたことが実り、多くの命が救われた。」とのお話をされた。また、「自分が、防災やその他の面でも人を力強く引っ張っていくような人間になって欲しい。」と中学生に語り掛けられた。

話の最後には、菊間町の防災士として、防災マップ作りやそれに伴う実地検分の際の留意点や重点チェック事項についてもアドバイスをしてくださった。

## 6月28日（火） 【第1回実践委員会】

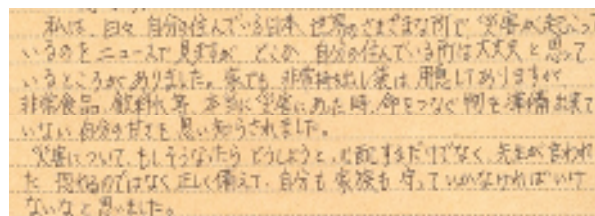
実践委員会は、愛媛大学防災情報研究センター准教授、今治市危機管理担当参事（兼）危機管理室長、今治市防災危機管理課長、今治市西消防署長、今治市立菊間小学校長、今治市立菊間中学校長、今治市立菊間小学校PTA会長、今治市立菊間中学校PTA会長、今治市菊間公民館長、菊間地区自治会長、今治市社会福祉協議会菊間支部長、今治市消防団菊間分団長、今治市菊間保育所長、今治市教育委員会学校教育課長の14名で組織し、事務局として今治市教育委員会学校教育課担当者と各校教頭が当たった。

この日は、今治市総合防災訓練の概要説明があり、訓練内容を確認するとともに、地域や小中学生、保育園児の参加方法について協議した。次に先進校視察研修について協議を行い、日時と視察校を決定した。最後に意見交換を行い、菊間地域での取組を周囲の地区に発信していくことを確認した。

## 6月28日（火）、7月29日（金） 【防災講演会（教職員・PTA）】菊間小



〈保護者の感想〉



本年度2回の防災講演会を行った。今治市防災危機管理担当の二場参事に昨年度に続いてPTA理事会で講演をしていただいた。今治市や菊間町の現状や、災害時に起こる危険などの話から、自分の身を守ることでできる（自助）子どもたちを守ることや共に助け合うことでできる（共助）地域を作ることの大切さについて学ぶことができた。（6月）

愛媛大学防災情報研究センターの二神准教授に、参観日の後に講演をいただき、近い将来

起こると言われている南海トラフ地震の被害予想や、正しい情報入手・判断力の必要性などについて話をいただいた。日頃から高い危機意識をもって備えておくことが大切だと改めて考える機会となった。（7月）

#### 6月30日（木） 【防災学習講演会】菊間中



愛媛大学防災情報研究センターの二神准教授に、「南海トラフ巨大地震に備える～地域の災害から命を守るために～」という演題で1年生対象に講演をしていただいた。

中越地震以降の事故・災害の紹介、南海トラフ巨大地震が発生したときの菊間町の浸水予想図や震度分布図等を示した図を基に、菊間町での被害想定について具体的に説明していただいた。そして最後に、自分たちで家族を守る努力が大切であると教えていただいた。講演を通して、遠くではない「もしも」に備える、しかも恐れるのではなく正しく備えるという態度が大切であることが生徒によく理解できた。

#### 7月11日（月） 【防災マップ作成についての打合せ】菊間中



全校生徒に対して、「自宅周辺の危険箇所、防災設備、避難場所」に関するアンケートを実施した。それを参考に、まず自分の命を自分で守ること（自助）はもちろん、地域の方と協力して助け合うこと（共助）を行いながら、安全に避難するためのマップ作りであることを全校生徒に説明し、防災マップの作成目的を共有した。その後、生徒は学友団ごとに集まり、巡回の計画を立てた。

#### 7月12日（火）～13日（水） 【防災頭巾作り】菊間小



5年生の家庭科「はじめてみようソーイング」の発展学習として防災頭巾を作成した。防災

頭巾は、避難後はほどこいて様々なことに活用することを前提に作成するため、丈夫に縫う必要がなく、裁縫の導入としてはよい教材であった。また、PTA役員や地域の方の支援もいただくことができ、一人一人が充実した学習となった。5・6年生で全校児童分を作成し、教室に保管して避難の際には持ち出せるようにしているが、頭を守るには強度不足であるため、改善が必要である。

#### 7月20日（水） 【防災マップ作成（校区内巡回）】 菊間中・菊間小



1学期終業式の日に、小中連携行事として自分の学友団を約30分間巡回し、危険と思われる場所や避難場所などを写真に撮るなどしながら確認をした。地域の防災士や消防士の方々もいっしょに巡回して、避難の仕方やマップ作成に関してアドバイスをいただくことができた。

#### 8月19日（金） 【地域内合同避難訓練】 菊間中・菊間小



小中連携行事として、災害時に適切に判断して安全に避難することができるように地域内合同避難訓練を行った。

今回は、学校から帰宅した後に、震度7の巨大地震が発生したことを想定して行った。まずは一次避難場所に避難し、そこで小学生と合流する。そして、二次災害を防ぐために前と後ろで中学生が小学生を挟むように並んで二次避難場所への避難を行った。小学生の歩くスピードに気を遣ったり、事前に確認していた地域の危険箇所に注意したりしながら実際に近い形で訓練をすることができた。

#### 8月20日（土）～21日（日） 【防災キャンプ】 菊間小



P T A主催の防災キャンプを実施した。4年生以下の児童は日帰り、5・6年生は校庭にテントを張って宿泊し、防災に関する知識や技能を高めることを目的に始めた。

夜間避難訓練では、「いつも歩いている道がこんなに怖いとは思わなかった。」「これで道路に何か落ちていたらと思うと恐ろしい。」といった感想が聞かれた。また、家族以外との共同生活や風呂や電気のない不便な生活体験は、避難所生活などをする際に役立つ体験となると考えられる。

#### 8月20日（土） 【市総合防災訓練】菊間中・菊間小



訓練開始の合図として、9時20分に地震発生による緊急地震速報が入り、災害対策本部の設置とともに、訓練が開始された。災害広報訓練、津波避難訓練、情報収集訓練、避難所開設訓練、地区応急対策訓練、そして救出訓練等、消防や警察、自衛隊等の協力を得て実施した。ドローンや防災ヘリが飛び、はしご車の出動やパトカーのサイレンなど緊張感のある訓練となった。菊間小・中学校も避難訓練や浸水歩行体験、煙ハウス体験、救出訓練時の被災者役、バケツリレーなどに参加し、学校だけでは体験できない貴重な訓練を行うことができた。

#### 8月29日（月） 【先進校等視察研修】



先進校研修として、淡路市立育波小学校を訪問した。育波小学校の特徴的な取組である、毎年1月17日に行う追悼集会での避難訓練についての話を伺った。次に、「震災・学校支援チーム」の活動について、所属している教職員から話を伺った。これは、兵庫県教育委員会が設置したチームで、県内及び他府県、海外において災害があれば、教育復興を支援する教職員の組織である。

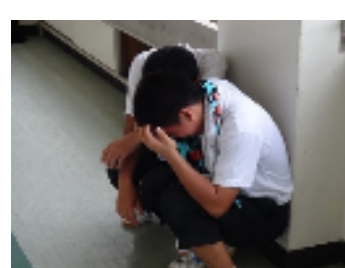
次に北端震災記念公園で研修を行った。最初に園長から、震災の体験談を聞いた。揺れの時間が短くあっという間に物が破壊されていく様子、被災直後に公の助けが無力化してしまうこと、そのために地域のつながりが多くの救出につながったことなどについて話を聞き、今後の防災教育の視点が示された。その後、施設を見学し、改めて震災の恐ろしさと備えの大切さを考えることができた。

9月1日（木） 【今治シェイクアウト訓練】菊間中・菊間小



「自分自身の安全は自分で守ること」を第一の目標とし、更に余裕があれば、身近な人を助けるなど地域防災力の強化も目標として訓練を実施した。訓練では、三つの安全行動に重点を置いたが、特に、我が身を守る正しい構えについては、児童・生徒は衣服が汚れることを嫌がることもなく「ダンゴムシの姿勢」を取るなど、防災の基本となる「自助」の意識及び実践力の高まりを感じた。

9月28日（水） 【避難訓練（地震、予告なし）】菊間中



現実の地震に近い状況での判断力・行動力を養うために、地震を想定しての避難訓練を予告なしで行った。清掃時間中に震度5弱の地震が発生した想定で、生徒たちはとっさに安全行動を取り、避難時の原則である「お・は・し・も」（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）を守り、的確な避難行動を取ることができた。

10月14日（金） 【防災教育参観日】菊間小



各学年で、発達段階に応じた防災に関する参観授業を行った。1・2年生は、愛媛県防災危機管理課職員を迎え、「みきゃんの防災教室」を、3～6年生は、教科や総合的な学習の時間で取り上げた防災に関する学習を公開し、学校の取組を家庭・地域の方に見ていただいた。また、授業後には、4年生以上の児童と保護者を対象に、愛媛大学防災情報研究センターの二神准教授に講演をしていただいた。改めて備えの重要性について考える貴重な機会となった。

## 10月18日（火） 【避難訓練（地震、津波）】菊間中・菊間小



授業時に緊急地震速報を受信、地震発生後に津波が来るという設定で避難訓練を実施した。安全な避難経路を的確に判断して、速やかに校外への避難することにより、津波等からの避難方法を身に付けることをねらいとした。地震速報によって教室内で安全確保のための行動を起こし、地震が収まったら二次避難場所へ避難するという対応を確認した。事前指導やこれまでのシェイクアウト訓練の効果もあり、昨年よりも1分程度早く避難することができた。



菊間小学校は菊間保育所と合同で行った。本年度は、地域の防災士の指揮の下、6年生と保育園の年中、年長児、5年生と1年生、4年生と2年生でペアになって手をつなぎ、学校の裏手にある標高35mの瓦のふるさと公園まで約300mの道のりを一緒に避難した。高学年の児童は、園児や低学年児童と手をつないで避難することで、自分の命だけでなく、より小さい命も守らなければならないという意識をもつことができた。

## 10月24日（月） 【第2回実践委員会】

学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組を検証し、菊間小・中学校の防災教育に生かすために、協議を行った。まず、小学校の6月から10月までの取組の概要を説明し、続いて中学校の取組の概要を説明した。また、小中連携しての地域での防災マップ作りや地域での避難訓練の様子について説明した。

## 11月1日（火） 【小中合同避難訓練】菊間中・菊間小



地震を想定した小中合同避難訓練を行った。今回は、地震の後に津波が来るという想定の下、小学生とともに高台にあるお寺に避難した。中学生は、協力してけがをした小学生を担架で運んだり、体力の落ちている小学生を背負ったりしながら避難した。お寺へと続く急勾

配の階段では、担架を運ぶ二人を手伝う生徒がいるなど、「共助」の意識とこれからの地域を担う自覚の芽生えが見られた。

### 11月17日（木） 【防災マップ説明会】菊間中・菊間小



防災マップは、今治市が作成しているハザードマップを参考にし、巡回した際に確認した①避難場所②危険箇所③役に立つものなどの項目を記入し、中学生が作成した。撮影した写真も効果的に活用させた。完成した防災マップの説明会を、中学生が小学校へ行って実施した。聞き手となった小学生だけでなく、発表者である中学生もともに防災への意識をより高める機会となった。また、文化祭にも掲示をし、地域コミュニティの活性化や地域防災力を少しでも高めるようにした。

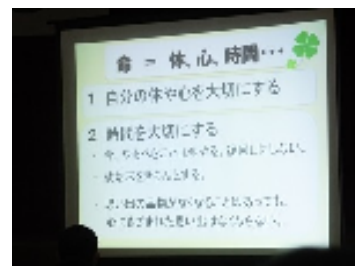
### 12月8日（木） 【第3回実践委員会】

これまでの実践について日程を追って確認した後、取組についてプレゼンテーション資料を用いて映像で振り返り、成果発表会での発表資料を検討した。

### 12月19日（月） 【シェイクアウトえひめ】菊間中・菊間小

「まず低く」「頭を守り」「動かない」を合い言葉に、すばやく「自助」のための行動をとることができた。

### 1月12日（木） 【防災教育講演会】菊間中



講師として近見中学校の越智敦子先生に来ていただき、1・2年生を対象に防災教育講演会を行った。先生は、東日本大震災の際、サポートチームやボランティアとして現地に赴き、支援活動に参加された経験があり、実際の状況や関わった被災地の方々、子どもたちのことを織り交ぜ、命の大切さや災害に対する心構えなどについて語られた。実体験に基づく話は、生徒の心に強く響き、防災の大切さを改めて認識できた。

### 1月25日（水） 【成果発表会】菊間中・菊間小

実践委員や来賓の方々を含め、約100名の参加者が集まる中、成果発表会が行われた。小中学校それぞれで公開授業を行った後、中学校で全体会が行われた。

全体会では小・中学校教諭による取組発表と協議の後、愛媛大学防災情報研究センターの二神准教授による講評・講演があった。

本事業を締めくくる活動として、授業や全体会等を通して、学校・家庭・地域の防災意識や実践力の高まりようを確かめるとともに、市内の小・中学校をはじめとした関係諸機関への啓発を促すことのできた大変有意義な成果発表会となった。



### 2月3日（金） 【防災体験学習】菊間中

少年式の記念行事として、今治西消防署、防災士会、社会福祉協議会の協力を得て、消火活動体験、担架の作り方、仮設トイレの設置の3グループに分かれ、ローテーションで防災体験活動を実施した。

緊急事態に備えて、身近な物を利用した処置の仕方や対策、また、配慮すべきこと等を習得できたことは、未知なる災害に対応する実践力を身に付けることにつながった。



### 年間通して 【ホームページや通信等による発信】菊間中・菊間小



小・中学校ともに、ホームページや学校・学年だより、「防災だより」によって、学校行事等の様子について家庭に発信している。防災関係行事についても、行事や授業等全ての活動の様子を発信することによって家庭や地域へ啓発し、防災に対する意識の向上を図っている。

## 年間通して 【防災コーナーの設置】 菊間中・菊間小



防災に対する意識を高めるために、児童・生徒だけでなく、学校を訪れた方にも見ていただこうと、1階の掲示板に防災コーナーを設置している。

小学校では、児童が考えた防災標語を各学年3点ずつ選出して掲示したり、災害が起こったときの行動に関するクイズを掲示したりした。中学校では、月ごとに「考えようコーナー」にテーマを設定し、生徒一人一人が災害に関する問題に関心を持ち、危険を予測し、それに基づいて迅速かつ的確に危険回避ができるよう場面設定を考えた。

### 3 取組の成果

- ・ 地域や関係機関とともに研究をすることで、足並みを揃えた取組を行うことができ、より地域に根ざした防災教育を実践することができた。
- ・ 防災教育研修計画に沿った様々な研修を通して、教職員の防災に対する意識が高まり、防災教育に向けて実践を行うことができた。
- ・ 防災教育の目標及び各学年別防災教育の目標の設定、防災教育年間指導計画の作成により、発達段階に応じた防災教育を進めることができた。
- ・ 火災や地震、津波等に対する避難訓練や救急救命法講習など、発達段階に応じた体験活動を通して、より実践的な学習ができた。
- ・ 保護者を対象にした防災教育講演会や引き渡し訓練、地域での小中合同避難訓練、今治市総合防災訓練などにより、家庭や地域の防災への意識が高まってきた。
- ・ 実践委員会の定期的な開催により、専門家の意見を参考にしながら、各団体や関係機関と連携して防災教育を進めることができた。

### 4 今後の課題

- ・ 防災教育年間指導計画を作成し、防災教育を行ってきたが、小中学校9年間を見通した年間計画の必要性や授業時間の確保など様々な問題点や改善点が明らかになってきた。本年度の反省を生かし、内容の精選と系統性を考慮した計画に改善していきたい。
- ・ 小中学校で協力して様々な形の避難訓練を行ってきた。災害には決まった形はなく、いつ、どこで、どんな災害が起こるかは予測できない。どんな状況下においても自分の命や身近な命を守れる児童・生徒を育てるため、基本形を大切にしながら、今後更に様々な状況を想定した訓練を行う必要がある。
- ・ 各学校での防災教育の取組を家庭や地域に発信しながら、更に家庭や地域と連携した防災教育・実践を重ねていきたい。